

弘前市吉野町緑地周辺整備等PFI事業 地区住民説明会

平成29年4月24日

弘前市都市環境部吉野町緑地整備推進室



事業目的

- まちなかにおける交流人口の増加や回遊性の向上による賑わいの創出を図る。
- 中央弘前駅の交通結節点としての強化等についても一体的に進めることで、隣接する土手町や鍛冶町を巻き込みながら、中心市街地としての価値を向上させる。
- 市民主体の生涯学習と地域文化の振興による市民生活の一層の充実と文化芸術活動の推進を図る。



- 本施設を訪れる全ての人に対して場を開き、地域の活性化に寄与するとともに、現在進行形や弘前に根差した芸術・文化を発信し、夢ある未来の基盤を官民連携（PFI事業）によって作り上げる。

PFI事業とは？

- ・「P F I」とは、公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の経営能力及び技術的能力等を活用して行う官民連携の手法のひとつ。
- ・「P F I 事業」により民間のノウハウを活用することで、**より質の高いサービスの提供、整備費の縮減、維持管理の効率化**を図る。

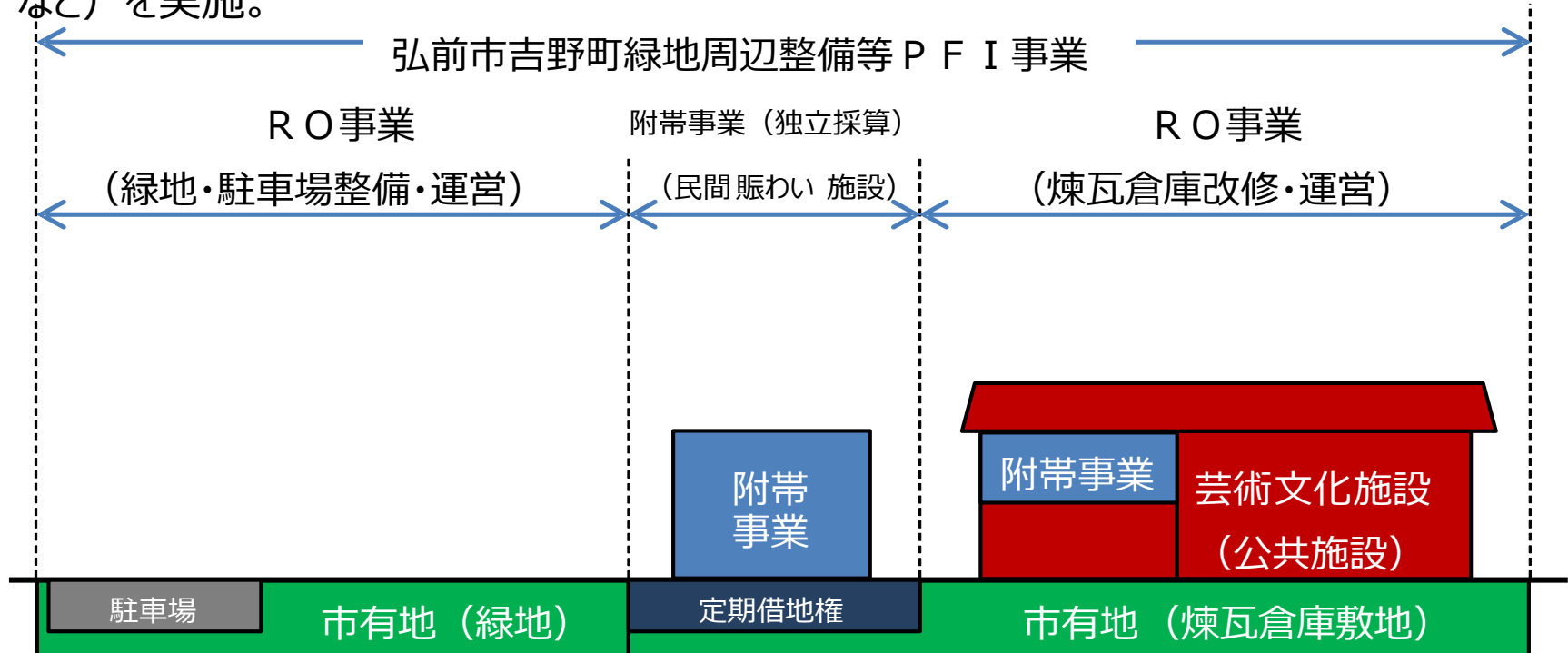
(あくまで市が発注者となって公共事業として行うもので、第三セクターやJ R や郵便局のような民営化とは違う。)



事業の一体性が確保され、経費の削減が図られるもの

事業内容

- ・PFI事業により実施。
- ・PFI事業者は、指定管理者として、芸術文化施設及び緑地の維持管理・運営を担う。
- ・芸術文化施設等の維持管理・運営と合わせて、民間自主事業（カフェ・レストラン・ショップなど）を実施。



事業の概要

(1) 事業名称

弘前市吉野町緑地周辺整備等 P F I 事業

(2) 事業地

弘前市大字吉野町2番1（吉野町煉瓦倉庫）、同2番7（土淵川吉野町緑地）

(3) 事業の内容

弘前市芸術文化施設及び土淵川吉野町緑地の改修整備

(4) 事業期間

- ・設計・建設は、平成31年度までに竣工予定。
- ・施設の開館は、平成32年度を予定。
- ・施設の運営は、平成47年3月31日までを予定

導入する機能

- ・「アート展示機能」については、現代美術を中心とした作品を展示
- ・市民や芸術家が作品を制作できる機能を配置

世界を感じる芸術や文化に触れることができる

市民・アーティストが文化・芸術活動を行うことができる

人が集まる、賑わいを創出する

アート展示機能

市民活動・交流機能

賑わい創出機能

煉瓦倉庫

(1) 展示スペース
企画展示空間、常設展示空間等

(2) 収集・保存スペース
収蔵庫（美術品、写真・映像コレクション、美術資料等の収蔵）

(1) 文化創造・発信スペース
ギャラリー（地元企業や大学等とも連携して新しいメディアやデザイン、アートの動向を紹介）、ミュージアムショップ 等

(2) 市民活動・交流スペース
アートカフェ、サークルルーム、アートプレイングルーム 等

(3) 教育・普及スペース
ワークショップルーム、レジデンス・スタジオ、アトリエ工房、ライブラリーラボ 等

(1) 民間商業スペース
カフェ、レストラン、ライフスタイルショップ、シェアオフィス、ブックカフェ

緑地

屋外展示、イベント、休憩スペース 等

優先交渉権者選定の流れ等

- ・ 公募型プロポーザル方式による募集
- ・ 2つの事業者グループより提案書が提出
- ・ 提案内容の審査を経て優先交渉権者を決定
- ・ 平成29年3月31日付けで事業契約締結に向けた基本協定書を締結

優先交渉権者グループ名 スターツグループ



代表企業	スターツコーポレーション株式会社
構成企業	株式会社大林組東北支店 スターツCAM株式会社 株式会社南建設 株式会社西村組 株式会社NTTファシリティーズ エヌ・アンド・エー株式会社 スターツファシリティサービス株式会社
協力企業	株式会社NTT ファシリティーズ東北

優先交渉権者の提案内容(① 全体計画)

＜本事業の方針としての3提案＞

【提案1】

建築そのものの価値を引き出す修復方針

ユニークな赤煉瓦造りの近代化産業遺産をできる限り現状の姿に忠実に修復して、その魅力を最大限に活かした施設にする。弘前城や明治洋館、前川國男の建築群に並んで、未来の弘前市民が誇れる観光拠点にする。

【提案2】

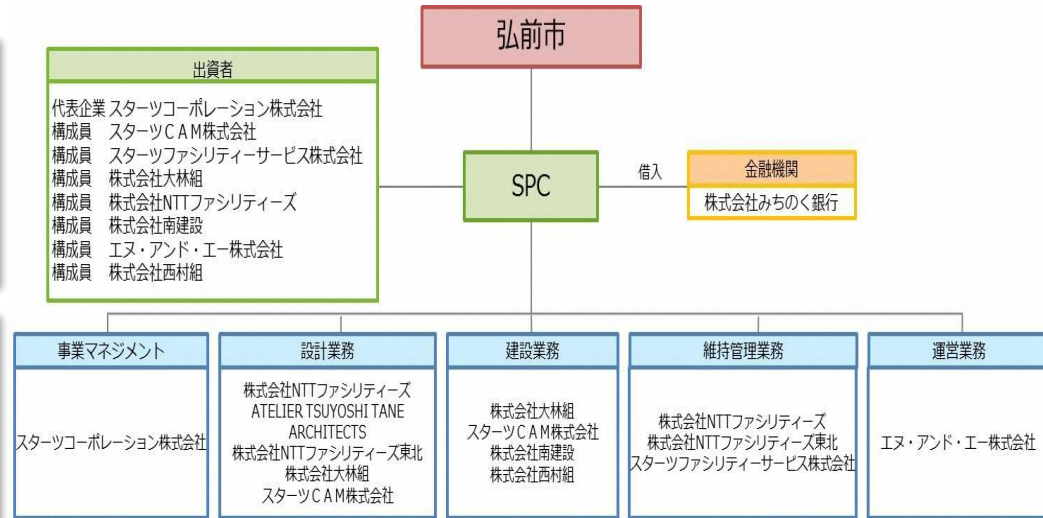
作り、展示し、歴史に残す

作り、展示し、歴史に残す、という一連の活動によって新しいタイプの芸術文化施設としての可能性を開くとともに、変化や時代に対応し、多様な表現形態にも応えることが出来る独自の創造・交流の拠点化を生み出す。

【提案3】

世界につなが、新たなステージ

弘前の市民、日本の人々、そして世界からの訪問者が集まり、アーティストックな感動を得て、自ら製作に参加する新たな活動の基盤として、弘前を世界につなが、新たなステージとなる。



◎デザイナー・アーキテクト

ATELIER TSUYOSHI TANE ARCHITECTS
建築家

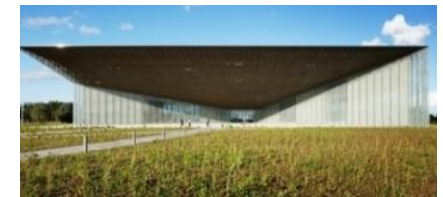
たね つよし
田根 剛
1979年生まれ。パリ在住。



「場所の記憶」を掘り起こす」を設計ポリシーとし、エストニア国立博物館などの設計を手掛ける。平成28年度文化庁芸術選奨文部科学大臣新人賞受賞。

設計実績

1. エストニア国立博物館



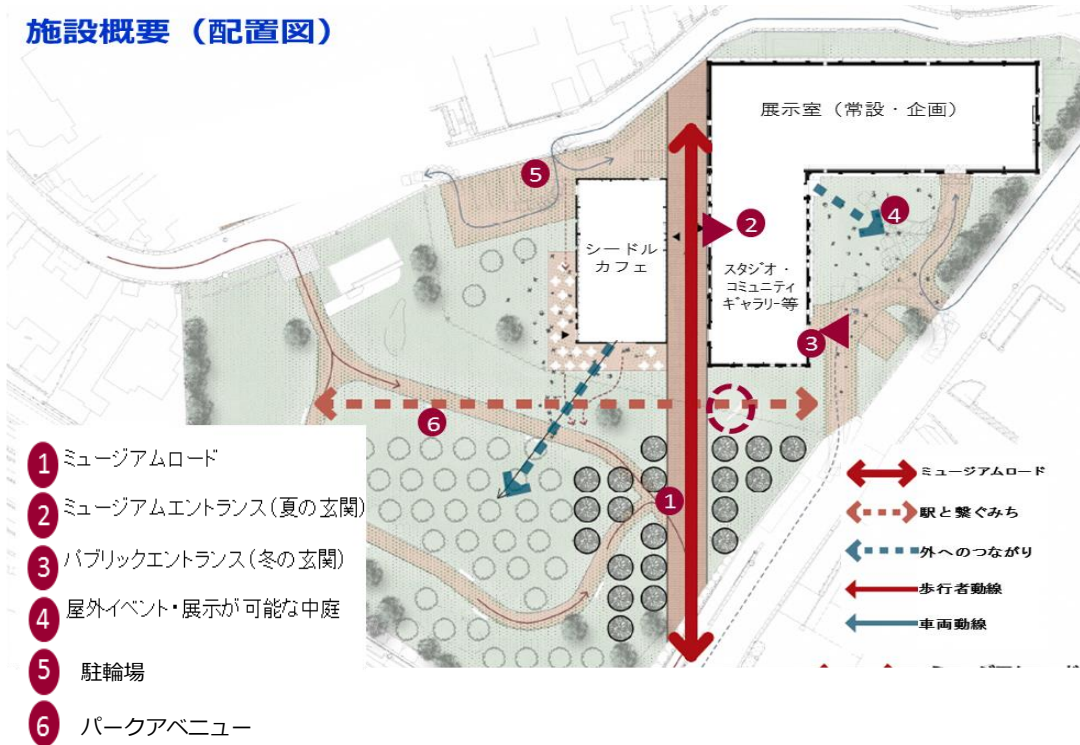
2. 新国立競技場案 古墳スタジアム



優先交渉権者の提案内容(② 施設計画・設計・監理・建設業務)

【施設計画】

施設概要 (配置図)



- I まちに新たな回遊性をもたらす
ミュージアムロードの設置
- II 夏の玄関を②に、冬の玄関を③に設置し、
夏と冬で煉瓦倉庫の異なる表情を創出
- III 敷地東側⑤には、一般利用者用の駐車場
は設置しない。
⇒ 近隣駐車場の利用誘導を図る。
- IV 将来における中央弘前駅周辺の整備を意
識したアプローチ動線計画

優先交渉権者の提案内容(② 施設計画・設計・監理・建設業務)

【設計・建設】

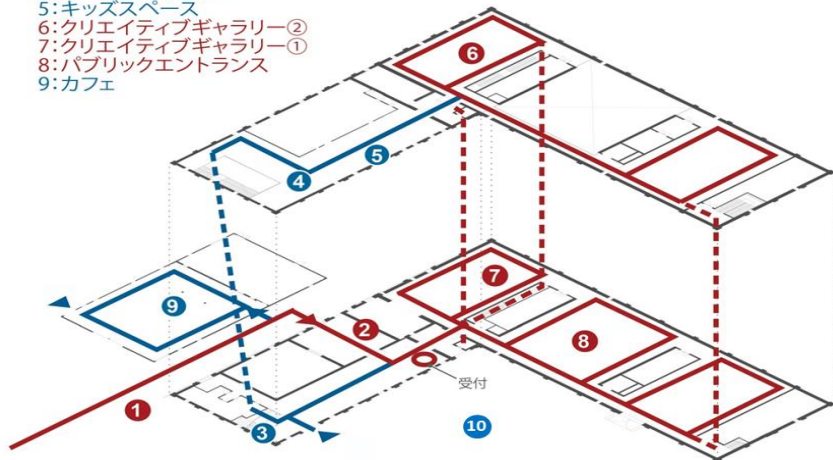
I 煉瓦倉庫の外観

- ・煉瓦倉庫自体を一つのアート作品と捉え、固有の空間の保全を重視
- ・煉瓦倉庫の印象を高めるデザインとして、シードル発祥の地を思わせるシードルゴールド色の屋根

II 内部空間

A棟は**市民活動の場**、B棟は**展示空間**

- 1:ミュージアムロード
- 2:ミュージアムエントランス
- 3:ライブラリー
- 4:オープンギャラリー
- 5:キッズスペース
- 6:クリエイティブギャラリー②
- 7:クリエイティブギャラリー①
- 8:パブリックエントランス
- 9:カフェ



時間や季節で使い分ける展示空間

(B棟)



常設展示	コレクションの常設展示
企画展示	企画による展示
AIR ※	アーティスト・イン・レジデンスおよび展示準備室

※ アーティスト・イン・レジデンス作家を招聘し、一定期間現地（弘前）に滞在していただきながら制作活動を行うこと。

優先交渉権者の提案内容(③ 作品の収集・設置業務)

“創って、魅せる” 21世紀型のコレクション

従来の収集・保存型の美術館から
創造・創作型の美術館へ

既存作品の購入に加えて、企画展とアーティスト・
 イン・レジデンスを有機的に連動させ、ダイナミック
 な事業展開を目指す

コレクションのための3つの柱

1. 赤煉瓦倉庫の建築と対話し、
 新たな創造性を喚起する作品



参考画像:オラファーエアソンの作品

2. 弘前・東北地域との対話を
 促し、その自然、歴史、物語を素
 材とする作品



参考画像:奈良美智の作品

3. 人々に現代における新たな
 創造性を喚起させる作品



参考画像:池田亮司の作品

優先交渉権者の提案内容(④ 開館準備業務)

I 広報業務

デジタル技術を駆使した情報の拡散とともに、事業者が直接、市民に働きかける広報を行い、期待感の醸成を図るなど、話題浸透型広報の展開

具体的な展開として、

- ・ SNSの積極的運用及びホームページとの連動
- ・ 開館前からのアーティスト・イン・レジデンス事業
- ・ 愛称の公募、開館前の市民無料日の設置など

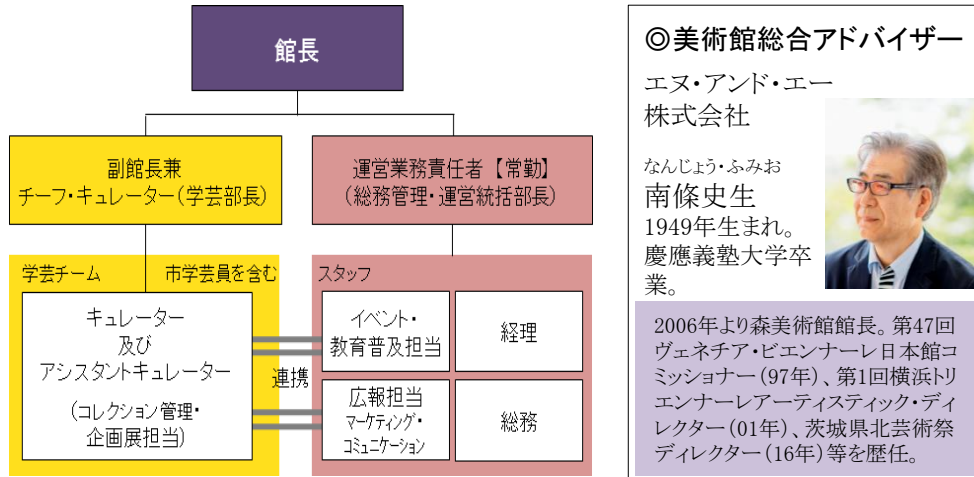
II オープニングイベントの実施方針

コレクションの3本柱を象徴する企画展やイベントの開催

- ・ 開館記念展は、開館3カ月前にアーティストが滞在し、記念展のための作品を制作予定
- ・ 開館時のイベントは、集客や周知を目的とし、施設の機能や魅力を効果的に発信
- ・ 既存のイベント（例えば、ファッション甲子園など）との連携

優先交渉権者の提案内容(⑤ 運営業務)

I 組織体制の概要図



II 開館時間及び観覧料

・開館時間

開館時間は、9時から17時までの8時間とし、週1回を休館日とする。ただし、「弘前さくらまつり」と「弘前ねぶたまつり」の期間中については、周辺の住宅及び施設への影響を十分に配慮しながら柔軟に対応する。

・観覧料金

区分	金額	
	個人	団体(20人以上)
常設展示観覧料	一般	500円
	学生	300円
企画展示観覧料	2000円以内で内容により適宜決定	

小中学生、高校生、市内の留学生、満65歳以上の弘前市民、ひろさき多子家族応援パスポート保有者、障がい者及びその付添い人(1人に限る)は無料とする。

III アート展示の考え方について

アート展示は、創って魅せるというコレクション方針に倣い、さまざまな形態を想定した運営

- ・常設展示、アーティスト・イン・レジデンス事業、企画展という3つの機能を有機的に連動させ、赤煉瓦倉庫の魅力を生かす。
- ・春と秋は企画展、冬は映像上映やパフォーマンス公演を実施するなど、施設の各空間を季節によって使い方を工夫し、固定化させないことを重視する。

IV エリア・アート・マネジメントについて

本施設をより多くの人に身近に感じてもらうため、市内、県内及び東北エリアの他施設や、市内の諸団体、企業、イベントと連携した周知を図り、地域環境や地域の価値の向上を目指す

V メンバーシップについて

本施設のファンづくりと幅広いサポーターを養成するため、個人会員と法人会員を設定し、年会費に応じて特典を用意

優先交渉権者の提案内容(⑤ 運営業務)

VI 市民活動・交流促進について

【市民活動・交流促進に関する業務】

- ①ワークショップ、講師、サロン等の企画・運営
アートセンター内や屋外緑地、C棟カフェを活用したさまざまなジャンルの各種イベントや展覧会、レジデンス・アーティストに関連した企画を実施
- ②スタジオ等の諸室の貸出
アートセンターのスタジオ、コミュニティギャラリーなどの貸館業務と施設運用のマネジメント全般を担う
- ③オープンライブラリーの開設
アートやデザインに関する資料などを随時追加し、ライブラリー機能を充実。ライブラリーは人々の出会いと交流の場としても機能。



参考画像:貸しギャラリーでの展覧会



参考画像:ライブラリー

【市民活動・交流促進に関するイベント(案)】

- ①開館前(2019年11月以降～)
 - ◇プレオープニングイベント(案)
 - ・アートスクールの実施
 - ・市民サポーターやボランティアの募集、研修
- ②開館以降(2020年3月下旬)
 - ◇主催イベント(案)
 - ・開館記念シンポジウム「アート県青森サミット」
 - ・東北考現学レクチャーシリーズ
 - ◇共催・提携イベント(案)
 - ・「弘前市市民参加型まちづくり1%システム」アート推進コンサルタント
 - ・「OLD&NEW (屋外マルシェ)」アンティーク・古書店などとの共同開催
 - ・「OLD&NEW (伝統工芸とデザイン)」津軽塗、ブナコや現代デザインとのコラボレーションイベントの共同開催
 - ・「ミュージアムパーティ」学校やサークルなど各種団体との共同開催



参考画像:ボランティア説明会



参考画像:レクチャー



参考画像:アンリアルレイジ×真鍋大度

など

優先交渉権者の提案内容(⑥ 附帯事業)

附帯事業とは、煉瓦倉庫の敷地内（倉庫内を含む）において、飲食・物販などの事業を独自に実施し、（仮称）弘前市芸術文化施設と一体的な賑わいの創出を図るもの

⇒ C棟のこれまでの歴史、景観を踏まえ、外観の意匠を生かしつつ、美術館のコンセプトと連動した新たな空間に改修

- ・ミュージアムショップ

伝統工芸をモチーフにした新たなブランドづくり

- ・ミュージアムカフェ

美術館の企画展や催し物にあわせたメニューの開発

「珈琲の街ひろさき」を感じるオリジナル珈琲の開発

- ・シードル工房

醸造から販売までを行い、シードルの普及に努める



(例)シードル工房

今後のスケジュール

仮契約締結	平成29年5月中
事業契約に係る議案提出	平成29年第2回定例会
事業期間	事業契約締結日～平成47年3月31日
設計・建設期間	事業契約締結日～平成32年3月31日（約2年9カ月）
開館準備業務期間	平成31年10月1日以前～供用開始日（6カ月以上）
維持管理期間	引渡日～平成47年3月31日（約15年）
本施設に係る運営期間	供用開始日～平成47年3月31日（約15年）